

税が問う未来

都留市立都留第二中学校 3年 舟久保 有位

私にとって「税金」という言葉は、これまでどこか遠い存在でした。しかし、ニュースで報じられる政治家の不祥事や無駄遣いの話を聞くたび、心の中に募る漠然とした怒りを感じずにはいられません。私たちが汗水流して納めたお金が、本当に国民や将来の日本のために、使われ、役立っているのか。そんな疑問が、税について深く考えるきっかけとなりました。

特に、少子高齢化や環境問題、地域間の格差など、深刻な社会課題を目の当たりにすると、政治の機能不全を感じます。税金は、これらの課題を解決し、よりよい社会への大切な資金であるはずです。しかし、政治家がその責任を十分果たしていないことに不信感を覚えます。そしてこの問題の根底には、私たち国民の無関心があるのではないかでしょうか。「どうせ政治は変わらない」という諦めの気持ちが政治家を甘えさせ、現状を維持させているのかもしれません。私達納税者は、税金を払うだけではなく、その使い道に关心を持ち、意見を表明する“権利と責任”を持っています。

私は、これから社会は、私たち一人ひとりが「社会を変えていく意思」を持たなければ、決して良くならないと思います。政治家任せにするのではなく、私たちが主体的に社会に関わっていくこと。それは選挙に行って自分の意志を示すことかもしれません。あるいは、ニュースを見て、社会の動きに关心を持つこと、身近な問題について友人や家族と話し合うことかもしれません。私たちが納める税金は、道路や学校、病院といった公共サービスを支え、私たちの生活の基盤となっています。しかし、それ以上に税金は、私たちが理想とする社会を実現するための「希望の投資」であるべきです。

将来、私も社会の一員として税金を納めることになります。その時、私は単に義務を果たすだけではなく、自分の納めた税金がどのように使われているかを常に意識し、その透明性を強く求めていきたいです。もし不適切だと感じることがあれば、恐れることなく声を上げ、改善を求める姿勢を持ち続けたいと思います。なぜなら、税金は単なる支払いではなく、より良い社会を築くための「投資」であると思ったからです。私達が描く理想の社会は、誰かに与えられるものではなく、私たち自身の行動によって創造されるものです。税金という形で社会を支えるだけではなく、その使い道に目を光らせ、未来に向けてどのような社会を望むかを明確に発信していくこと。それが今の私達に課せられた最大の責任ではないでしょうか。私たちが紡ぐ未来は、決して政治家任せにするものではありません。私たち一人ひとりの主体的な关心と、社会を変えようとする搖るぎない意思、そして具体的な行動が積み重なることで、初めて理想の社会への続く道が拓かれる信じています。